

令和3年度（2021年）
京都市立芸術大学大学院音楽研究科（修士課程）入学試験問題
語学（英語）

A：以下の文を読んで設問に答えなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(Jonathan Sterne, *The Audible Past: Cultural Origins of Sound Reproduction* (Durham & London: Duke University Press 2003), 8)

注：crystallization = 結晶化 commingle = 混じり合う cordon off = 封鎖する、隔絶する
disposition = 気質、性質

- 1) 下線部 1 this process of crystallization の意味を説明しなさい。
- 2) 下線部 2 deploy を別の言葉で言い換えるとしたら、次のうちどれが最も適切で
うか。
a) destroy b) decoy c) defuse d) abuse e) use
- 3) 下線部 3 の実例を文中から 1 つ選んで説明しなさい。
- 4) 著者のテクノロジーについての考えに対するあなた自身の考え方を書きなさい。

B : 以下の文を日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(Tia DeNora, *After Adorno: Rethinking Music Sociology* (UK: Cambridge University Press, 2003), 1)

令和3年度(2021年度)
京都市立芸術大学大学院音楽研究科入学試験
語学(ドイツ語)

以下は、ヨーロッパで新型コロナウイルスの流行が続く中、ミュンヘンのラジオ局であるバイエルン放送のクラシック音楽専門チャンネル（BR-Klassik）が、指揮者サイモン・ラトル（Simon Rattle）に対して行ったインタビューの一節である。これを読んで、以下の設問に答えなさい。なお、インタビューは2020年6月に公開されたものである。



この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

この問題は著作権法上の関係により，出典のみを記載しています。

出典: SIMON RATTLE ÜBER KULTUR NACH CORONA

<<https://www.br-klassik.de/aktuell/simon-rattle-dirigent-interview-sorge-orchester-ueberleben-corona-100.html>>

*1 Lockdown 「ロックダウン（都市封鎖）」

*2 Gelegenheiten beim Schopf packen 「チャンスをすかさず捉える」

問1 (A) ～ (E) に当てはまる単語をそれぞれ一つ選びなさい。

A: (ア) im (イ) zum (ウ) vom (エ) am

B: (ア) am (イ) im (ウ) aus (エ) vor

C: (ア) Warum (イ) Seit wann (ウ) Wie lange (エ) Was

D: (ア) damit (イ) weil (ウ) obwohl (エ) trotzdem

E: (ア) für (イ) nach (ウ) wegen (エ) aus

問2 下線部①と②を日本語に訳しなさい。

問3 文章の内容に沿っているものには○を、沿っていないものには×をつけなさい。

(ア) ラトルは、バイエルン放送局内で聴衆なしの演奏を行うことになっているが、リハーサルは禁止されている。

(イ) ロックダウン（都市封鎖）の間も、ラトルは自宅で指揮棒を持って練習し続けていた。

(ウ) ロックダウン中、ラトルは家族と過ごす時間を大切にしていた。

(エ) ラトルは家事全般得意だが、料理だけは苦手だ。

(オ) 新型コロナウイルスの感染拡大が続くようならば、音楽家は社会の中でゴキブリのようにぞんざいに扱われてしまうのではないかとラトルは危惧している。

(カ) 今回の演奏会はわずか2週間前に決定したが、これは今までの慣例を考えると画期的なことだ。

(キ) 新型コロナウイルスの流行がきっかけとなって、音楽業界は色々と良い方向に変わってゆくのではないかとラトルは考えている。

令和3年度（2021年度）
京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題

外国語（仏語）

I. 次の文を日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

Histoire de la musique, sous la direction de Roland-Manuel, Gallimard, 1960-1963, 2 vols., t. II.

II. 次の文を日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

Science de la musique : technique, formes, instruments, sous la direction de Marc Honegger, Bordas,
1976, 2 vols, t. II.

III. 以下の文をフランス語に訳しなさい。

1. もし私がショパンだったら、この曲をどのように弾くだろうか。
2. 彼は、誰か（彼を）手伝ってくれる人を探している。
3. 成功するには、最善を尽くさなくてはならない。
4. 病気なのに、彼女はピアノでリストの曲を演奏する。

令和3年度（2021年度）

京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題

外国語（イタリア語）

I. 次の文を日本語に訳しなさい。

Norma

Norma è un'opera di Vincenzo Bellini, rappresentata per la prima volta al Teatro alla Scala di Milano, il 26 dicembre 1831.

Riassunto della storia:

Siamo nel tempo dell'occupazione romana della Gallia. Norma è una sacerdotessa della Gallia ma è stata anche l'amante del proconsole Pollione, con cui ha avuto due figli.

Una giovane sacerdotessa, Adalgisa, dice a Norma di non essere più vergine e chiede a Norma di sciogliere il patto che aveva fatto con la divinità. Norma è nella stessa situazione, quindi accetta la richiesta. Poi quando scopre che l'uomo di Adalgisa è Pollione, Norma vorrebbe uccidersi ma Adalgisa dice che convincerà Pollione a tornare da lei.

Norma decide di dichiarare guerra contro i Romani, quindi deve sacrificare una persona. Arriva Pollione Norma sta per ucciderlo, poi parla con lui e gli chiede di rinunciare ad Adalgisa. Pollione rifiuta e Norma dice a tutti gli uomini presenti nel tempio che c'è una sacerdotessa che non è più vergine e che ha tradito la patria, quindi deve essere uccisa.

Con la grande sorpresa di tutti, Norma dice il proprio nome e Pollione capisce la grandezza di Norma e decide di morire con lei.

II. 次の文を日本語に訳しなさい。

Sono qui in casa, da sola

Sono qui in casa, da sola, e aspetto Fabio. Lo aspetto ormai da 3 ore e non capisco cosa è successo. Ieri mi ha telefonato e mi ha detto che sarebbe passato a prendermi alle 11.00 per andare a fare un pic-nic. Invece non è ancora arrivato. Uffa! Sono le 2.00 e ho fame, avrei mangiato qualcosa ma non ho niente in casa. Questa mattina non sono andata a fare la spesa perché sapevo che avrei pranzato con Fabio! Ci sono dei pomodori nel frigorifero e forse un po' di pasta. Che faccio? Forse mi preparo una pasta con i pomodori. Peccato però. Sarei voluta tanto andare fuori. E' una così bella giornata!

III. 次の文をイタリア語に訳しなさい。

イタリア人は家で食事をするのが大好き。朝は軽めにエスプレッソとパンが定番。マンマが専業主婦の場合、家族は学校や勤務先から昼食のために家に帰ってくることもあるとか。夕飯は家族みんなで、1日のできごとを話しながら、ゆっくり時間をかけていただきます。

令和三年度（二〇二一年度）

京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題

語学 日本語（古典）

一、次の文章は『徒然草』第百五十段「能をつかんとする人」の一部分です。全文をよく読み、問一、問二、問三に答えてください。

能をつかんとする人、「よくせざらんほどは、なまじひに、人に知られじ。うちうちよく習ひ得て、さし出でたらんこそ、いと心にくからめ」と常にいふめれど、かくいふ人、一芸も習ひ得ることなし。いまだ堅固かたはなるより、上手の中にまじりて、毀り笑はるるにも恥ぢず、つれなく過ぎて嗜む人、天性その骨なけれども、道になづまず、みだりにせずして、年を送れば、堪能の嗜まざるよりは、終に上手の位にいたり、徳たけ、人に許されて、双なき名を得る事なり。

天下の物の上手といへども、始めは不堪の聞えもあり、無下の瑕疵もありき。されども、その人、道のおきて正しく、これを重くして放埒せざれば、世のはかせにて、万人の師となる事、諸道、かはるべからず。

語釈 ○能＝技芸一般 ○堅固＝まったく ○かたは＝未熟 ○つれなし＝他の事を気につけない ○なづむ＝とどこおる ○堪能＝素質ある人 ○不堪＝堪能の反対 ○無下＝ひどいこと ○瑕疵＝きず ○放埒＝わがまま勝手にふるまうこと ○はかせ＝模範となる者

注記 この問題の本文、約物（句読点、括弧等）は、富倉徳次郎著『評釈 徒然草』（旺文社、一九六一年）に従うが、一部変更した。

問一、次の文章は、最初の段落の「よくせざらんほどは、なまじひに、人に知られじ。うちうちよく習ひ得て、さし出でたらんこそ、いと心にくからめと常にいふめれど」という部分に対して、文法的説明をおこなったものである。空欄【ア】～【ヤ】にはいる適当な文法用語を、選択肢（い）～（の）から一つずつ選べ。（同じものを、複数回選んでよい。）

・冒頭の「よくせざらんほどは」は【ア】詞「よし」の【イ】形に、【ウ】活用の【エ】

詞「ず」の【オ】形「せ」、【カ】詞「ず」の【キ】形「ぎら」がつづき、さらに【ク】詞「む」がつながる。つぎの「ほど」は【ケ】詞なので、直前の「む」は【コ】形になっている。つづく「は」は【サ】詞で、「取り出して指定する」働きをもつ。活用はしない。

・「知られじ」は、【シ】活用の【ス】詞「知る」の【セ】形、【ソ】詞「る」の【タ】形＋【チ】詞「じ」の【ツ】形が組み合わさったものである。「知られてはいけない」という意味になる。

・「出でたらん」は【テ】活用の【ト】詞「いづ」の【ナ】形、【ニ】詞「たり」の【ヌ】形「たら」、さらに、【ネ】詞「む」の【ノ】形がつながった句である。

・「心にくからめ」の「から」は、【ハ】詞の活用語尾で、【ヒ】形である。そこに【フ】詞の「め」が【ヘ】形でつながっている。【ヘ】形をとるのは、先行する【ホ】詞の「こそ」を受けて活用を変える、いわゆる【マ】の法則があるからである。

・「いふめれど」は、三つの品詞に分解できる。最初は【ミ】詞、次は、【ム】詞、三つ目は、【メ】詞である。二つ目の【ム】詞は、【モ】活用で、【ヤ】形で、三つ目の品詞につながる。

(い) 動 (ろ) 助 (は) 助動 (に) 形容 (ほ) 形容動 (て) 接続 (と) 連体
(ち) 副 (り) 名 (ぬ) 未然 (る) 已然 (を) 終止 (わ) 連用 (か) 命令 (よ)
四段 (た) ナ行変格 (れ) ラ行変格 (そ) 下二段 (つ) 下二段 (ね) 上二段 (な)
上二段 (ら) カ行変格 (む) サ行変格 (う) ク (ゐ) シク (の) 係り結び

【ア】	【イ】	【ウ】
【エ】	【オ】	【カ】
【キ】	【ク】	【ケ】
【コ】	【サ】	【シ】
【ス】	【セ】	【ソ】
【タ】	【チ】	【ツ】
【テ】	【ト】	【ナ】
【ニ】	【ヌ】	【ネ】

【ノ】		
【フ】		
【マ】		
【メ】		
【ハ】		
【ヘ】		
【ミ】		
【モ】		
【ヒ】		
【ホ】		
【ム】		
【ヤ】		

問二、第二段落の全文（「天の下の物の上手くかはるべからず」をわかりやすい現代語に訳してください。

問三、冒頭の「能をつかんとする人」は、どのように品詞分解できますか。また、どのように現代語訳するのが適切でしょうか。

二、次の文章は、平家物語をふまえて、後世に書かれた謡曲《忠度》の一部分で、亡霊として現れた平忠度が、僧侶の前で、みずからの最期を物語る一節です。よく読んで、問一、問二に答えてください。

さるほどに一の谷の合戦　今はかうよと見えしほどに　皆々舟に取り乗つて海上に浮かむ　われも舟に乗らんとて　汀のかたにうち出でしに　うしろを見れば　武蔵の国の住人に　岡部の六弥太忠澄と名のつて　六七騎にて追つ掛けたり　これこそ望む所よと思ひ　駒の手綱を引つ返せば　六弥太やがてむずと組み　両馬が間にどうど落ち　かの六弥太を取つて抑へすでに刀に手をかけしに　六弥太が郎等　おんうしろより立ち回り　上にまします忠度の　右の腕を打ち落とせば　左のおん手にて　六弥太を取つて投げ除け　今はかなはじと思しめして　そこ退き給へ人びとよ　西拝まんと宣ひて　光明遍照　十方世界念仏衆生　摂取不捨と宣ひし　おん声の下よりも　痛はしやあへなくも　六弥太太刀を抜き持ち　終におん首を打ち落とす

注記　この問題の本文は、『謡曲集　上』（日本古典文学大系、岩波書店、一九六〇年）に従うが、句の切れ目は、句読点ではなく、空白によってしめした。

問一、傍線部の動詞を含む節は、「六弥太」「忠度」「郎等」のうち、だれの行動であると理解するのが適切でしょうか。それぞれについて解答してください。

(一) 舟に乗らん

(二) うしろを見れば

(三) 追つ掛けたり

(四) 望む

(五) 引つ返せば

(六) 取つて抑へ

(七) 手をかけしに

(八) 立ち回り

(九) 打ち落とせば

(十) 投げ除け

(十一) 思しめして

(十二) 宣ひて

(十三) 打ち落とす

問二、右の文中で、物語に登場する人物が声に発したであろうと考えられる言葉、また心の中で発したであろうと思われる言葉、言い換えれば、引用符（鉤括弧）で囲むのがふさわしいと思われる部分を見つけ出し、すべて書き出してください。